

ともに助け合う ②

支援をするときの心得

災害が起きたとき、要配慮者によって困ることはさまざまであり、一人ひとりの状態に合わせた支援が必要です。周りにはいる皆さんは、その人が何に困っているのか、今どうしてほしいのかコミュニケーションを取りながら、支援を行ってください。

支援のワンポイント 心肺蘇生とAEDの使用手順



※講習を受けて人工呼吸の技術を身に付け、人工呼吸を行う意思があり、感染症による感染リスクがないと判断した場合に実施

あなたのまちで 応急手当を教えます
最寄りの消防署にお申し込みください。希望の場所で応急手当前講座を行います(無料)。受講者は市内在住・在勤・在学の人で10人以上集まる講習を対象としています。



逃げる とき

目が不自由な人

- 正面から声をかけ周囲の様子を伝える。
- ひじを持ってもらい、支援者が半歩先に立って誘導する。

耳が不自由な人

- 周囲の様子をメモ、携帯電話のメール画面に入力して伝える。

妊産婦・乳幼児がいる人

- 妊産婦の人や乳幼児を抱えての避難は大変なため、手荷物などをもち一緒に逃げる。

保護が必要な子ども

- 声をかけて落ち着かせ、一緒に避難所へ行く。

周囲とのコミュニケーションが苦手な人

- 普段から慣れ親しんでいる人が手助けする。
- 気持ちを落ち着かせ、避難が必要なことを絵や身振りで伝える。

体が不自由な人

- 車いすや担架を利用したり、数人で抱えたりして逃げる。

日本語に不慣れた外国人

- 絵や身振りで周囲の様子や避難方法を伝える。

持病・障害のある人

- 外見からは障害があることがわかりません。本人の要望を聞き、一緒に逃げる。

介護が必要な高齢者

- 荷物などを持ち一緒に逃げる。

避難所 では

- 文字によるお知らせは読み上げて伝える。
- 通路などに歩行のさまたげになる物がないか、気をつける。

- 音声や放送によるお知らせは、メモや携帯電話のメール画面、身振りで伝える。

- 安心して授乳ができるよう、ついたてなどでプライバシーを保護する。

- 親と離れ1人の場合、やさしく声をかけて困っていることを聞く。
- 言葉かけやスキンシップなどで安心感を与える。

- ゆっくりと声をかけて不安を取り除き、どのような手助けが必要か聞く。

- 車いすが通れるように通路を確保する。

- 文字、放送によるお知らせは簡単な絵や身振りで伝える。
- 掲示板などの張り紙はできるだけ多言語で書く。

- 通院が困難になると命にかかわる場合があるため、医療関係者に避難していることを伝える。

- おむつ交換が必要なときは、ついたてなどでプライバシーを保護する。

安心+茨木市の防災

災害時に配慮が必要な人へ

SOSカードはいざというときに自分の情報や、手助けしてほしいことを伝えるためのカードです。災害時に周囲の人にカードを見せて、自分の情報を伝えましょう。

中央のページ SOSカード



はつらつパスポート～みんなで連携編～

はつらつパスポートは要支援・要介護状態の高齢者やその家族が、医療・介護スタッフとの連携・連絡をスムーズに行い、介護ケアを充実させるための情報共有手帳です。この手帳を見ることで、支援者がその人の状況に合った支援ができるよう、日頃から携帯しておけば、災害時の支援にも役立ちます。

【問合せ先】茨木市健康医療部長寿介護課(市役所本館2階) 電話 (072) 620-1637

